実習生の受け入れを行いました。

長崎大学 医学部 保健学科より

看護学専攻３名、理学療法学専攻１名、作業療法学専攻１名

実習期間：令和７年９月２日(火) ～ ９月５日(金) ４日間

今回の実習は、看護学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の共同実習であり、医療保健福祉現場でのチームアプローチの重要性を学ぶ **「統合ケア実習」** です。

～ 実習生からのコメント ～

○看護学専攻
職種による視点の違いと多職種連携の重要性について実感することができた。今回の実習で意見交換や計画立案をしていく中で、目の前にいる対象者の能力を評価し、その対象者にとっての最善策を考える視点を今後自分の視点として取り入れていきたい。

○看護学専攻
一人の利用者の生活を支えることの実際を学ぶことができた。今回初めて多職種との合同実習であったが、職種の役割を自覚することの重要性を学んだ。様々な視点から話し合いができ、あらゆる角度から意見を伝えあうことができた。

○看護学専攻
PT、OT、NS それぞれの視点から対象者を捉え、より良い生活を送る上でどのような問題点があるか考え、その中で職種によって重視することに少しずつ違いがあると感じた。対象者が住み慣れた地域で暮らし続けるためにそれぞれの視点から対象者を捉え情報共有することで、より良い支援を行うことができると実感することができた。

○理学療法学専攻
一人の対象者さんの支援内容を考えた中で、対象者だけではなく対象者さんの介護者の負担を考えることが大切だと思った。介助者の負担が大きくなるとその生活は続かないと感じた。

○作業療法学専攻
多職種の学生同士で協力して事例を検討する中で、それぞれの専門性が対象者を支えていると実感した。異なる視点の意見が新鮮であり、職種ごとに強みが異なるため今後も他の職種と意見交換を行い、対象者にとって最適なアプローチができるようになりたい。